

2. 事業の目的と概要	
(1) 上位目標	移動図書館車による学校巡回活動を支援することで、南アフリカの小学生の識字力および読解力の向上を図り、初等教育の質的向上、教育環境の改善に資すること。
(2) 事業の必要性(背景)	<p>(ア) 1994年にアパルトヘイト制度が撤廃され、新生民主主義国家となった南アフリカ共和国(以下、南アとする。)では、全国で校舎の建設や整備や給食の無料化などが進み、小学校6年間の義務教育での就学率は95%以上まで達し、南ア政府の教育行政の量的課題はほぼ解決できたとされている。(出典「Report on the Annual National Assessments of 2009 issued by 南ア政府」)</p> <p>(イ) しかしながら、南ア初等教育省統計「Systematic Evaluation Grade 3 Literacy & Numeracy Results 2008」によると、読解力の習得率は依然3割程と低く、勉学の基礎である読解力をいかに高めるかという質的課題が大きな課題となっている。行政の目が届きやすい都市部の学校でも、行政の目が届きにくい遠隔地の学校でも、読解力習得率の低迷は同じ傾向であり、南アでは読解力向上の改善が早急な課題である。また、多くの黒人の教師が、学童期にアパルトヘイト制度の影響で図書に触れる機会が少なく、更に充分な教職課程を受けることなく教師となったケースも多い為、教師の読解力や指導力の向上も大きな課題となっている。</p> <p>(ウ) 初等教育省ガイドライン「初等教育図書要綱」によると、義務教育の過程で図書を活用することが読解力の向上に有効であるとされているが、南アにある小学校約14,000校のうち、図書室のある学校は約2,000校に過ぎない。(出典「Report on the Annual National Assessments of 2009」)つまり、各校における図書の配備は不十分であり、生徒が図書に触れる機会は極めて少ないため、その機会を増やすことで、生徒の読解力の向上に寄与することが重要となっている。</p> <p>(エ) 当団体はこの質的教育課題の解決の糸口として、アパルトヘイト制度で被支配者層であった黒人やカラード(混血)の生徒を対象に、移動図書館車による学校巡回活動を実行支援し、小学生の図書に触れる機会を増やすことによって、識字力や読解力が向上させることを目的にこの活動に取り組んできた。年間4学期制の義務教育のもと、各学期の最初月に図書の貸出サービスを行い、最終月に返却を行う活動を展開しており、移動図書館車が各学校を年間8回訪問している。移動図書館車の訪問を通じて、教師は同乗する司書より授業での図書活用の指導を受け、生徒は図書の貸出サービスを受けている。その結果、訪問先の学校では、読解力の成績が全体的に向上しており「図書によって読解力が高められる」という図書の有用性が実証されてきている。</p> <p>(オ) 当団体は、2009年度に南アでの協働団体であるNPO「SAPESI (South African Primary Education Support Initiative)」とともに草の根無償資金援助により12台を、翌2010年度には日本NGO連携無償資金協力により12台の移動図書館車を南ア各</p>

	<p>地に送った。</p> <p>(カ) 2012年7月現在、9つの州の内4州32拠点において、日本より送られた図書館車が遠隔地及び都市部の学校を定期的に巡回しており、教師や生徒に図書を直接貸し出すことによりその役目を果たしている。現地 NPO「SAPESI」は、車両整備の後方支援（日系企業に対し、部品や技術協力の依頼）や運営上のアドバイスなどを行っている。</p> <p>(キ) 当団体のこうした活動の成果は南ア初等教育省も認められており、2012年度には南ア初等教育省発行の「初等教育図書要綱」において、移動図書館車活用の有用性が正式に謳われた。</p> <p>(ク) 2012年度では、フリーステート州とクワズールー・ナタール州の2州より移動図書館車提供の要請があった。今回の8台の図書館車送付先選定過程で、これら2州の受け入れ体制、つまり予算確保・人員確保・輸入許可証獲得がなされている点、及び当該2州で移動図書館車運行標準手続き作成に前向きになっている点等を考慮して今回の送付先をフリーステート州及びクワズールー・ナタール州にすることとした。両州が取組む運行標準手続き作成には Sapesi-Japan 及び Sapesi-South Africa が全面的に支援する予定である。</p>
(3) 事業内容	<p>(ア) 日本全国の自治体より8台の中古移動図書館車を収集する。 《8台の移動図書館車寄贈先自治体》 奈良市、嘉麻市、廿日市市、三朝町（フリーステート州向け） 奥多摩町、東温市、館林市、加賀市（クワズールー・ナタール州向け）</p> <p>(イ) 安全運行を持続させる為に、輸出前の車両点検整備を行う。</p> <p>(ウ) 南ア・日本の関係者を招集して、移動図書館車の出港式を開催し、本事業の意義を日本および南ア社会に発信する。</p> <p>(エ) 通関手続後、海上運送（自動車船）にて、南ア・ダーバン港へ移動図書館車を送る。</p> <p>(オ) 南ア・ダーバン港で通関を経た後、フリーステート及びクワズールー・ナタール州の教育庁に、4台ずつ移動図書館車の引渡しを行う。</p> <p>・車両引渡後、各州教育庁の地区教育委員会が、車両登録から保管、運行、必要人員採用、図書購入など日常的な維持運行の管理を行う。現地 NPO「SAPESI」が各地区教育委員会の業務支援を行う。</p>
(4) 持続発展性	<p>現地 NPO「SAPESI」と連携を図りながら、移動図書館車事業の進捗をフォローする。具体的には以下の通りである。</p> <p>(ア) 事業活動訪問等を通じて、通年モニタリングを実施する。</p> <p>(イ) 整備面では、技術的な支援とともに実質の車両整備を行う。</p> <p>(ウ) ベスト・プラクティス（優れた実践例）を評価分析し、それを他の活動拠点に伝えて、情報の共有など学び合いながら、改善活動を推進していく。</p> <p>(エ) 図書館車巡回対象の学校と、そうでない学校との識字率や読解力の現状比較を、教師の協力を得て、効果を検証する。</p> <p>(オ) 南ア初等教育省より2015年度までに100台の移動図</p>

	<p>書館車を配備する要請がある為、移動図書館車の追加ニーズに応じて、更なる事業拡大を目指す。他州も含めた南ア全土での事業普及を目指す。</p>
<p>(5) 期待される成果と成果を測る指標</p>	<p>《期待される成果》</p> <p>(ア) 児童生徒の識字率、読解力の向上に寄与することにより、児童生徒の知識、好奇心の醸成を促し、読書意欲・勉強意欲を高めて、積極的に授業に参加する子供を増やす。</p> <p>(イ) 教師の読解力向上や図書を通じた生徒指導力向上に寄与することにより、教師のやる気を高め、教師の社会的評価向上に資する。</p> <p>(ウ) 南ア教育関係機関は今回の事業実績を通じて、図書館車巡回対象の学校と対象外学校との識字教育の実状をより詳しく把握することによって、適切・有効な教育行政に繋げることができる。</p> <p>(エ) 今回の送付により受益者数は下記の通りとなる。</p> <p>① フリーステート州 訪問校数 173 校 対象教員数 1377 名 対象生徒数 33188 名</p> <p>② クワズールナタール州 訪問校数 136 校、対象教員数 2877 名、対象生徒数 70761 名</p> <p>《成果を測る指標》</p> <p>南ア初等教育省は全国の小学生 1 年生～9 年生を対象にした、国語算数能力テスト結果を昨年 12 月に始めて発表した。成果測定指標としてこの国語算数能力テスト結果の時系列州別結果を見ていきたい。</p> <p>尚、昨年発表された国語算数能力テスト結果は、正解率 50%以上で母語 52%英語 36%であった(全国平均)。この 2 つの地域のテスト結果を今後 3 年間で 5%程度向上させたい。</p>